

“安心・安全”を 大原則として拘りを注ぎ込む 頼もしきフットワークマイスター

走りと魅力を際立たせるGTブランド

tanabe

足元の機能美を極めるホイールブランド

SSR



スタイリングを魅せる。ハンドリングを楽しむ。

そんなクルマ本来の醍醐味を味わう上で欠かせないのは足回り、ホイールといったフットワークのチューニングだ。

創業当初からモータースポーツとともに歩み、性能と品質の双方を妥協なく突き詰めてきたタナベは

「ルールは守る。常識は超える」というコンセプトを掲げて、

“安心・安全”という走りの頼もしさが担保されたハイパフォーマンスアイテムを数多く生み出してきた。

SUSTECシリーズを筆頭にしたGTパーツを手がける「tanabe」

ユーザーニーズへ応える多彩なホイールをデリバリーする「SSR」。

ふたつの注目ブランドでユーザーをバックアップする

フットワークマイスターの飽くなきこだわりへ触れていこう。

走りと魅力を際立たせるGTブランド tanabe

走りへの欲求から始まった 本気のGTパーツ開発

愛車をチューニングしたいのに、パーツが少なく思うようにいじれない。そんな走りに対する欲求をきっかけとしてGTブランドであるtanabeは1982年に立ち上げられた。

ファーストラインアップは走りとスタイルの双方から引き締める強化スプリングを軸に、メタルクラッチや軽量フライホイールといった駆動系パーツも展開。その後もオイルクーラーやエキマニ&マフラー、車高調からエアサス、強化スタビライザーに

補強パーツと、tanabeはユーザーニーズへ応えるラインアップ拡充を常に図っている。

中でも注目すべきは、クルマを楽しむに当たって良質なフットワークは欠かせない存在と捉え、ブランド立ち上げから常に探求を重ねてきたカスタムスプリングへのこだわりだろう。

というのも、tanabeはN1やF3000、スーパーフォーミュラにスーパーGTと、多岐にわたるカテゴリーへレース用スプリングを長年供給。コンマ1秒を削るコンペティションシーンで培ったノウハウをストリートモデル開発へとフィードバックし続けている。

要求値が異なるモータースポーツとストリートの両ステージで日々追求してきた性能や品質、耐久性。その中で軽量化、スプリングレートの出方、耐久性などさらなるレベルアップを目指し、tanabeは2001年、滋賀工場内にスプリング製造工場を新設。アフターパーツメーカーとしては初

理想のスプリングを求めて冷間成形製法を導入
**確かな物作りから生み出す
優れた性能と品質、耐久性**

“安心・安全”を
大原則として拘りを注ぎ込む
頼もしいフットワークマイスター



となるハイパワーコイルリングマシンを導入し、高強度で耐へたり性に優れた冷間成形でのスプリング供給体制を整えた。

**性能探求とともに
安心・安全を添える**

ハイパワーコイルリングマシンの導入で実現された、冷間成形でのスプリング供給体制。

「もちろん、最新鋭の設備を導入しただけでは理想の性能が手に入るわけではありませぬ。材料は品質の高い国産にこだわり、設計、生産工程、品質管理まで最適化することで、高性能で安心・安全が確立します。だからメイドインジャパンにこだわっているのです」とはマーケティング部で広報を担当する林さん。

そんなtanabeのスプリングに使用される素材だが、高周波誘導加熱処理を施した独自オーダーの材料は、高強度・高靱性に優れ、強度のバラつきが非常に小さく抑えられているのが特徴。スプリングの成

形後も形状の安定性や耐久性、耐へたり性ともに高水準をキープすることができるとの。

また、安心・安全という部分ではこだわり設計を形にする生産工程に加えて、品質管理も重要だ。材料を仕入れた際に毎回、自社の計測機で基準を満たした硬さが確認を行う。低温ブルーイング(低温焼きなまし)で時間と温度を徹底管理。最終検査では全数検査を行ない、設計通りに仕上がっているかどうかどう



tanabeのカスタムスプリングはコイルリング、低温ブルーイング(低温焼きなまし)、ダブルショットピーニング、セッチング、下地処理に粉末塗装と多数の工程を経て仕上げられる。出荷前の最終検査はもちろんだが、各工程においても自由長など設計通りの仕上がりにしているかを全数チェック。製品に絶対的な自信を持っているからこそ、カスタムスプリングのSUSTEC、GT、DEVID Eにはへたり永久保証が与えられているのだ。



安心・安全のもとで足回りの性能を発揮させるためにはブラケット設計が非常に重要なものとなる。独自基準を設けているブラケット試験では縦方向、横方向それぞれ100万回もの加振試験や溶接の強度面を徹底チェック。長期にわたって安定した性能を発揮できるtanabe製品のタフネスさは、こうしたこだわりを積み重ねて築き上げているのだ。



スプリング性能の理想を追求する中でたどり着いたのが、高強度で耐へたり、軽量で自由度の高い設計が可能な冷間成形だ。アフターパーツメーカーでは唯一となるハイパワーコイルリングマシンを滋賀工場へ導入し、2100N/mmもの引っ張り強度を誇るカスタムスプリングを生産させた。素材選びから生産工程、品質管理まで一切の妥協を許さず生み出していき、タナベこだわりの逸品。ダウンサスや車高調に採用するストリート用はもちろん、レース用も同じ生産ラインを使用する。

か各工程においてシビアにチェックする。こうした真摯な物作りへの姿勢はカスタムスプリングだけでなく、その他のアイテムに関しても揺るがない。たとえば車高調のブラケットひとつにしても装着車両に適合すればOKではなく、厳格な社内基準でテストを重ねて溶接や強度を確実に最適化していく。

車格やユーザーニーズに応じた開発設計へ妥協なき物作りのこだわりをコンペティションさせて、走りと魅力を際立たせていくGTブランド、tanabe。カスタムスプリングを筆頭に安心・安全という走りの頼もしさが担保されたハイパフォーマンスアイテム群は、チューニングライフを楽しむ上で見逃すことのできない存在だと語るだろう。

マーケティング部
用品企画広報課
タナベ 林正美さん

1996年入社。マフラーや補強パーツの製造へと携わった後に、補強パーツを主軸とした製品開発を担当。製造・開発双方を熟知した経験を活かし、現在はtanabeのブランドマーケティングを担当している。

「自由長やレートといった部分が注目されるスプリングですが、“安心・安全”が担保されたハイパフォーマンスアイテムへ仕上げるためには、基本設計の確かさに加えて素材や製法、工程や品質の管理まで一切の妥協が許されません。アフターパーツメーカーで唯一となるハイパワーコイルリングマシン導入の冷間成形だけで満足するのではなく、通常なら1回となるショットピーニングを大小の全周角を使ったWショットピーニングにするなど、優れた性能を安定して発揮させることや耐久性を徹底的に追求しています」

足元の機能美を極めるホイールブランド



機能美ホイール探求への歩み

モータースポーツに魅せられたひとりの青年が自分で楽しむために工作機器を駆使して生み出した、3ピース構造のアルミホイール。アウトターリム一体型のディスクと補強板そしてインナーリムをピラスポルトで接合してワイドリム化を果たしたMK・IこそSSRがホイールの機能美探求へと歩み出した原点だ。

今でこそスポーツホイールと言えは1ピースといった流れになっているが、MK・Iの誕生した1971年はアルミホイール黎明期。1ピースのアルミホイールは存在していたものの、まだまだ荒削りな仕上げがりで、革新的と呼ばれるスピニング製法によ

て軽量かつ強靱に仕上げられた3ピースのMK・Iは、バネ下重量軽減での運動性能向上へ意欲的だったモータースポーツで高く評価されていく。

そんな経緯から、SSRはブランド立ち上げから現在にいたるまでモータースポーツと密接に関わりながら、クルマ好きの若者が求める機能美ホイール探求を進めてきた。

こうして不朽の名作として今なお人気を集めるMK・Iを皮切りに、レーシングホイールを手がけつつMK・IIやMK・III、フォーミュラメッシュなど数々の逸品を生み出してきたSSR。今でこそモータースポーツで培ったノウハウを反映させた「GT」シリーズに1ピースを投入しているが、プロフェッサーSP5のように下手な1ピースでは太刀打ちできない史上最軽量を誇る3ピースなど、ブランドの原点となる組み付けホイールの機能美探求も怠らない。

それぞれの構造が持つ特徴を踏まえ、多彩な機能美を提案する妥協なき物作り。安心・安全という走りの頼もしさを担保した上で、軽さや剛性といった性能とカッコ良さを備えていく。そのスタンスは、MK・Iから今に至るまで不変だ。



古くはF2000、今はスーパーGTと多彩なカテゴリーにレーシングホイールを供給してきたSSR。現在、スーパーGTで使用されているホイールの基本デザインは10本スポークから長らく変わらないが、実はチームからの要望を反映させつつ毎シーズン細かなアップデートが図られている。剛性が高すぎればタイヤの摩耗が早くなるなど、トップカテゴリーならではのデータもノウハウとして蓄積され、ストリートホイールの開発時に反映されていくのだ。



モータースポーツでワイドリムのアルミホイールを使用したいという想いから誕生したのが、不朽の名作として広く知られるMK・Iだ。工作機器を駆使して製作したアウトターリム一体型ディスク、補強板、インナーリムをピラスポルトで接合した3ピースは、スピニング製法で当時の1ピースを凌ぐ軽さと強さを誇り、モータースポーツからストリートまで数多くのユーザーを魅了した。

頼もしさへのこだわりは走りのシビアさを知るが故

市販アルミホイールのクオリティ確保を狙って課せられるのが、JWLとVIAというふたつの規格。

「いくらスポーティなカッコいいデザインでも、安心・安全が確保できないようであれば、新しい機能美とは言えない。それでは意味がないんです。机上論だけでは想定できなかった走りのシビアさを経験してきました。より厳しい独自の基準を設けています」とは、SSRの企画広報を担当する土居さん。

というのも、SSRは重要な開発テーマとして軽さを掲げるが、そればかりに捉われてしまえばスポーツホイールとして本来転倒となってしまう。そのため、長年蓄積したノウハウと解析技術によって必要な強度を机上で確保しつつ、設計は果敢に攻め込み、独自基準の厳格なテストヘトライ。こうした作業を地道に重ねて、妥協なく理想の一本へと鍛え上げるのだ。

ちなみに、SSRのルーツとなる3ピースでも基本的な考えは変わらない。「最近のクルマは高重量化が進み、また空

ホイール構造にに応じて多彩に用意する技術アプローチ

すべての足元に軽さと強さを余さず注ぐ老舗ホイールブランドのこだわり

内空間を確保するために足回りが外にレイアウトされ、昔に比べてハイインセット化しています。ホイールは大口径でタイヤの性能向上により、インナーへの負荷が大きくなってきています。モータースポーツにおいても同様で、インナーリムの強度が重要だと考えています」と土居さんは語る。

インナーリム、アウトターリム、センターディスクで構成する3ピースでは、パーツごとに強度を変えることが可能。それにより、一般的な市販モデルで採用されることが少ない、インナーリムの熱処理を標準化。スピニングと熱処理の組み合わせは、実はかつてのレーシングホイールに採用されていた技術であり、この製法で軽量かつ高剛性なインナーリムを持つ頼もしき3ピースへと仕上げていく。

どのような構造であれ、SSRが機能美探求の中で最重要視しているのは軽さと強さの両立。攻略ポイントはリムにありと位置づけているからこそ、熱処理リムやFFT、FFT-R、鍛造といった技術アプローチを多彩に用意しているわけだ。

スポーツホイールとしての可能性を突き詰める1ピースの展開はそのままに、今後はD1などで3ピースxスポーツのチャレンジも構想しているSSR。モータースポーツと3ピース構造からスタートした老舗ブランドが今後どのような展開や技術革新を繰り広げていくのか、その動向から目が離せない。



ミリ単位で履きこなせる2ピースのようなインセットの自由度こそないが、ワイドリムを展開しやすい3ピースはアウトターが美しく、インナーは熱処理とスピニングで鍛え上げられる機能美ホイールだ。MK-Iをルーツに、3ピースホイールへ力を注いできたSSRは、ピラスポルトも数多くのバリエーションを用意しデザインに応じて使い分けていく。



最近の3ピースではアウトターリムとインナーリムの接合部分をシーリングのみで仕上げるケースも多いが、機能美ホイールを追求するSSRは接合部分を溶接後にピラスポルトを規定トルクで本締めしてシーリングする。溶接や組み付けには熟練したスキルも要求されるが、安心・安全のホイール供給を圆るため社内で常に技術伝承が行なわれているのだ。

“安心・安全”を大原則として拘りを注ぎ込む 頼もしきフットワークマイスター



マーケティング部 企画広報課 タナベ 土居正剛さん

1999年入社。デザイン・設計へと配属され、ドレスアップシーンを牽引したヴェイク・クワイズを生み出す。設計のノウハウを日々学びつつデザインを手がけ、SSRの企画広報も兼任する。

「機能パーツとして頼もしさをしっかりと引き出し、そこに軽さやカッコ良さを備えていくのがSSRの揺るぎなきスタンスです。走りの性能を追求する1ピース、ミリ単位のインセットで足元を鍛える2ピース、パートごとにベストな性能を追求できる3ピースで各構想の持ち味を引き出した多彩なシリーズを展開しています。いずれのアイテムも安心・安全を大前提としてデザインや性能の進化を圖ってきました。厳格な自規格をクリアした軽さと強さ、そして機能美で魅せる足元の味わいを堪能してください」

リアルモータースポーツスペック



“安心・安全”を
大原則として拘りを注ぎ込む
頼もしいフットワークマイスター



GT FUNTORIDE DAMPER ジーティー ファントライド ダンパー

価格：15万8千円～18万8千円

適合車種：RC F、カローラスポーツ、86、フェアレディZ、BRZ、WRX S4、スイフトスポーツ、コペン、CH-R GRスポーツ

※GRスープラ、ノートニスモ、ロードスターほか順次開発予定

tanabe×SSRのブランドリンクが始動!

スポーツカーの走りを心地よく楽しむ 人馬一体のフットワーク



ランニングシューズを履いて駆け抜けるような爽快感を目指した「GT FUNTORIDEダンパー」は、ストリートからワインディングがターゲットステージだ。乗り心地を犠牲とせず、スポーツカー&スポーツグレードにふさわしい頼もしいハンドリングが引き出せる。



86は前後とも5kg/mmでセットアップ。後期モデルはフロント25mmダウン、リヤ30mmダウンの推奨車高としているが、40段階の減衰力調整と全長調整機構をあわせて、好みの車高や乗り味へと煮詰めている。

ストリートスポーツに向けた 妥協なきしなやかさ

tanabeが2020年、新たなシリーズ展開としてプロデュースするのが、スポーツカー&スポーツグレード専用となる「GT FUNTORIDE DAMPER」だ。

これは「リアルモータースポーツスペック」を掲げて、SSRが用途や好みに応じたスポーツホイール展開を図っている「GT」へ、tanabeがコンセプトをリンクさせてフットワーク開発に取り組んだものとなる。

気になるセットアップは万人向けのようなコンフォートスペックではなく、かといってタイムアタックや走りに特化したサーキットスペックでもない。ハンドリングがリニ



リアルモータースポーツスペックをコンセプトに、tanabeとSSRの両ブランドがGTシリーズをリンク。走りを楽しむFUNTORIDEダンパーはGTV系&スポーツラジアルの位置づけとなるが、より走りを追求したGTX系とも相性はバツグンだ。

アな人馬一体感を心地よく楽しめるストリートスポーツスペック。スポーツカー&スポーツグレードの名に相応しい、妥協なきしなやかさを目指し、走りを楽しむために必要なダウン量、ストロークや減衰力などGT専用チューニングが入念に加えられてきた。

もちろん、ダンパーはKYB製でメインバルブとベアバルブのふたつを備えて、微低速度域からリアな減衰力立ち上がり誇るTVS機構を搭載。スプリングには高張力鋼材を冷間成形で軽量化に仕上げたPRO210を採用。さらに、別売りのPRO210は豊富なラインアップから組み合われば、自分好みのセッティングも可能だ。

走りを重視した際につきまとう不快な硬さは徹底して抑え込み、ネーミング通りのファン・トゥ・ライドを実現した注目のダンパーキット。スポーツをキーワードにするSSRのGTシリーズとともに愛車へマッチングし、スポーツカー&スポーツグレードならではの心地よい走りを味わってみよう。

また、純正ダンパーにスプリング交換のみで手軽にチューニングできる「FUNTORIDEスプリング」もラインアップしている。